

## 第二言語としての日本語教室における内省活動の研究 —「ピア内省」を組み込んだ活動デザインの提案—

金 孝卿

学位取得年月：平成 18 年 3 月

取得学位名：人文科学博士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】自律と協働、内省と対話、「ピア内省」活動

【要旨】

本研究では、日本語学習者の自律的な学習能力の養成を目指すアプローチの 1 つとして、「ピア内省」を組み込んだ活動デザインを提案した。本研究で取り上げる「ピア内省」活動とは、日本語使用の体験が終わった後、その体験について、学習者仲間（ピア）と対話することによって、協働的に双方の内省促進を図る教室活動である。

本論文は、大きく、【1】理論的背景、【2】「ピア内省」活動の有効性を探った 4 つの研究、【3】日本語教育のための活動デザインの提案、この 3 つに分けることができる。【1】の理論的背景では、「体験学習における内省モデル」と「協働学習としてのピアの効用」の 2 点を統合的に捉えなおし整理した。【2】の研究では、まず (1) 学習者仲間が、他の学習者の内省促進に貢献できるか、という点に関して、個人の内省過程を分析するための要素を明らかにし、その上、学習者同士で双方の内省促進のプロセスが作れることを明らかにした（「研究 1」「研究 2」「研究 3」）。次に、(2) 活動デザインへの示唆を念頭に置き、内化を有効に促すための「ピア内省」活動の条件は何か、という点から「ピア内省」活動の有効性を検証すると共に、内省促進に関わる協働的な相互行為の要因を明らかにした（「研究 4」）。まず (1) の結果に関しては、次の点を明らかにした。「研究 1」では、内省の観点とレベルという点から内省のプロセスを分析した結果、①内省の観点の広がりにはレベルの深まりと関係があり、学習者間で個人差として現れた、②異なった観点をもつ学習者同士で話し合うことによって双方の内省をより深められる可能性が示唆された。「研究 2」では、①「質疑・応答」場面での相互行為を分析した結果、質疑・応答活動の中で学習者は、研究内容に関する批判的思考を活性化していた、②聴衆役の学習者は様々な視点から発表者に質問を行い、その質問によって発表者は自分の研究の内容と理解の過程を内省する機会を得られていることがわかった。「研究 3」では、聴衆側学習者が発表内容に対して書いた評価コメントを分析した結果、聴衆側自身も質疑・応答活動を通して、発表から得られた情報や気づきの再生のみならず、既有知識や経験との関連づけや統合・価値付けを行っている様子が窺えた。次に、(2) の結果に関しては、次の 2 点を明らかにした。(A) 相互行為において内省がうまく促進されるには、「情報の共有」と「具体的な指摘や褒め」が深く関わっている。(B) 特に、共有される情報の種類が、具体的な指摘の生成に深く関わっている。すなわち、共有される情報の種類によって、個人の言語学習上の課題や知識の違いやズレ（認知的側面）に気づききっかけが作られ、そこからさらに具体的な指摘（社会的側面）が生成されている事実が示された。これらの研究結果から、「ピア内省」活動が、個人の内省をより深めたり豊かにする上で寄与できるという点を示した。最後に、【3】では、4 つの研究結果を踏まえ、「ピア内省」を組み込んだ活動デザインの提案と実践上の留意点を示した。

(きむ ひょうぎょん)